

地域連携部会 令和5年5月24日(水)

出席者

委員：阿部 力、北瀬 淳子、窪田 剛久

職員：國島 嘉子(生徒支援 G)、山口 諒(生活指導 G)、渡邊 健(広報 G)

事務局：広瀬 邦彦 (校長)、渡辺 克己 (教頭)

・議題「AGE28 プロジェクト」

教頭：卒業10年後を見越した教育活動の推進として、3つの柱があり、1部活動、2国際理解、3地域連携が挙げられます。

社会の求められる人材として、高校を卒業した後の状況判断ができる人材育成が大切です。昨年の活動(地域連携)としては、学習サロン、夏祭り、選挙ボランティア、三ツ境養護との交流等を行いました。これからの地域と連携をしていく上で話していきます。いかがでしょうか。

阿部：参議院選挙の手伝い助かりました。

ボランティアの経験から政治参加意欲の向上などにつなげてもらえればと思います。

國島：大変でしたが、貴重な経験だったと生徒は言っていました。

校長：地域に必要とされた経験を積んだことが大事です。

いろんな分野で活躍できる場があればいいと思います。例えば、地域清掃などのお助け隊を設け、地域に貢献する場を多くするとか。

國島：コロナ前の活動は、あさひホームの清掃など老人ホームのお手伝いがあった。

川井地域の防災訓練にも参加していました。

北瀬：選挙は、区内で川井地区は投票率が悪い。

障害者理解が求められており、小学校で福祉教育が行われている。

デイサービスやボッチャなど、あらゆる場面での参加や協力がとても助かっています。そこで、子ども達にボッチャの審判の資格を取得していただけないか。

國島：ボッチャを文化祭でも開催する予定です。そこで審判の件、働きかけていきます。このような活動のおかげで、子ども達に他者を思いやる精神が徐々に身につけてきました。

教頭：世代を超えて、障害の有無関係なく、相手のためになっていることにやりがいを感じている。教室や授業外で学ぶことは多くある。誰かの役に立つことからやりがいが生まれる。

國島：地域の人と関わると、言葉を選んで会話をするため社会の勉強になっている。

阿部：ボッチャの大会、6月にあります。勝ち抜いてきたチームが集まります。

北瀬：審判派遣のためにルールがわかる講習みたいなのがあるといい。

國島：3年生が地域ケアプラザでの講演会は生徒が運営しました。

阿部：地区の避難訓練への参加については、これからも必要だと思います。

災害ボランティアのようなものを作ると参加する人が増えるのでは。

渡邊：コロナ後における、マスクの着用など現状はどうですか。

窪田：マスク着用は個人判断です。熱中症もあるので外してほしいところ。

小5・6年生は、思春期のため、なかなか外せない子が多い。

高校生はマスクを外していますか。小学校の先生はマスクを外し始めました。

北瀬：デイサービスの方は、マスク着用お願いしています。

地域活動の方は、マスクの着用推奨しない、消毒液も撤廃、パーテーションもなくなりました。

阿部：幼稚園はまだ少しマスクつけている。

渡邊：職員の8割はマスクを着用。生徒も3分の2ほどは着用している。

学校の活動としては、コロナ前に戻す予定です。

教頭：色々ご協力ありがとうございました。これにて、地域連携部会を終了致します。